



日本共産党品川区議会議員

週刊 みやざき克俊

事務所 品川区豊町6-2-1 Tel.3786-6674
2008年11月23日 No.641

日本共産党品川区議団ホームページ <http://www.jcp-shinagawa.com/>



小中学校に定員制

選択制 破綻!

「少人数学級」の導入は画期的!



	定員を設定する学校	定員	学級数	クラス人数
小学校	大間窪、戸越、伊藤、延山、品川、城南、城南第二、芳水、小山、小山台	60名	2学級	30人
	第二日野(日野学園)、第三日野、第二延山、立会、原(伊藤学園)、八潮学園	100名	3学級	33人と 34人
	大井第一	140名	4学級	35人
中学校	荏原第三、荏原第四	65名	2学級	32人と 33人
	戸越台、荏原平塚、八潮学園	105名	3学級	35人
	日野(日野学園)、荏原第五	145名	4学級	36人と 37人
	伊藤(伊藤学園)、荏原第一	185名	5学級	37人

学区内で定員を超えた場合と4月以降に転入があった場合は定員より多くなります。

品川区教育委員会は来年度学校選択の実施にあたって一部の小中学校に受け入れワク(定員)を設定しました。定員は今年の春からすでに導入していましたが来年度さらに拡大します。定員の導入は「選ばれる学校」をあおってきた選択制の破綻です。

定員の設定校は、小学校が38校中17校。中学校が16校中9校です(上の一覧表参照)。
小学校は定員60名が大間窪・戸越など10校、定員100名が6校、140名1校を設定。中学校は定員65名が荏原第三と荏原第四の2校。さらに105名3校と145名2校、185名2校を設定しました。学区内外を合わせて定員を超えた場合に学区外の希望者を抽選します。定員ワクの導入は、学区内の子どもを優先し学区外を締め出すもの。「自由に選べる」学校選択制に規制をかけるものです。
なお、これまで地理的条件から品川区内で受け入れてきた大田区東馬込の子どもたちは、受け入れを拒否します。

学校に 定員制

選択制の見直し広がる 少人数学級こそ区民の願い

品川区教育委員会は定員導入を「学校施設の制約上」と説明します。児童・生徒が集まると施設が対応できないならそもそも選択制は無理だったことになります。いま、選択制を見直す自治体が広がり、江東区は「学校と地域の関係が希薄になった」と来年度からの中止を発表しました。

学校の統廃合計画で 「選択制」に新たな矛盾

学校選択制は学校に序列をつけ、子どもたちと地域の関係を壊す―住民の批判が高まるなか一転して定員ワクで選択制を制限します。しかし、学区外を希望する子どもの事情は考慮せず、東馬込の児童・生徒受け入れも

拒否するなど選択制の導入前より後退する問題があります。定員導入の背景に学校統廃合

があります。教育委員会は今年6月に発表した統廃合計画「中間まとめ」で、小中一貫校と大規模校・小規模校をバランスよく配置するとして、「小規模校を多くせず学校数を児童・生徒数に合わせる」、「小規模校が集中する在原地区での統廃合も必要」と小規模校の統廃合を打ち出しました。しかし、統廃合したなかで、子どもが集まる学校と集まらない学校ができたら問

30人学級 東京都にも —広がる署名運動—

「東京で30人学級を実現する連絡会」は東京都に30人学級の実施を求める署名活動を始めました。「会」は、作家の雨宮処凛さんや脚本家の小山内美江子さん、俳優の渡辺徹さんら8人が呼びかけて結成。東京都教職員組合、東京都公立学校教職員組合も協力しています。

子どもは「学級が楽しくなった」、教職員から「子どもの学ぶ意欲の向上」「欠席の減少」「読書量の増加」など、少人数学級の効果が全国各地の経験で明らかになっています。いま、学力の危機、学級崩壊、不登校やいじめなど多くの人々が胸を痛め、どの子にもゆきとどいた教育をと少人数学級を願っています。



30人学級は全校で！

問題はさらに拡大します。定員の導入で片寄りをなくす考えでしょうが、矛盾だらけの選択制と定員ワクは見直すべきです。

運用による自治体独自の少人数学級を認めた02年以降、全国の道府県で少人数学級を導入。ところが、東京都だけが実施しません。品川区が少人数学級を導入することは画期的です。

今回の定員設定は「ひとクラス30人」など小人数学級を導入する面もあります(表面参照)。文部科学省が、教員の弾力的

「30人学級」の実現は、多くの父母・住民の願いです。教育委員会は30人学級を一部の学校だけにせず、すべての学校で平等に実施するべきです。

無料
法律相談は

12月12日(金) Pm 6:30



みやざき克俊事務所